

世界が進むチカラになる。



グラフで見る関西経済 (2024年9月)

2024年9月9日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

- 関西経済は、足踏み状態となっている
- 6月の生産は前月比-2.3%と2カ月連続でマイナス、均してみると足踏み状態となっている
- 7月の実質輸出は3カ月連続で上昇したが、均してみると足踏み状態となっている。
- 名目賃金指数は、特別給与の増加もあって前年比+7.2%と上昇率が拡大し、7カ月連続でプラスとなった。実質でもプラスとなった。

項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	足踏み状態となっている
輸出	足踏み状態となっている(↑)
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移している
公共投資	高めの水準となっている

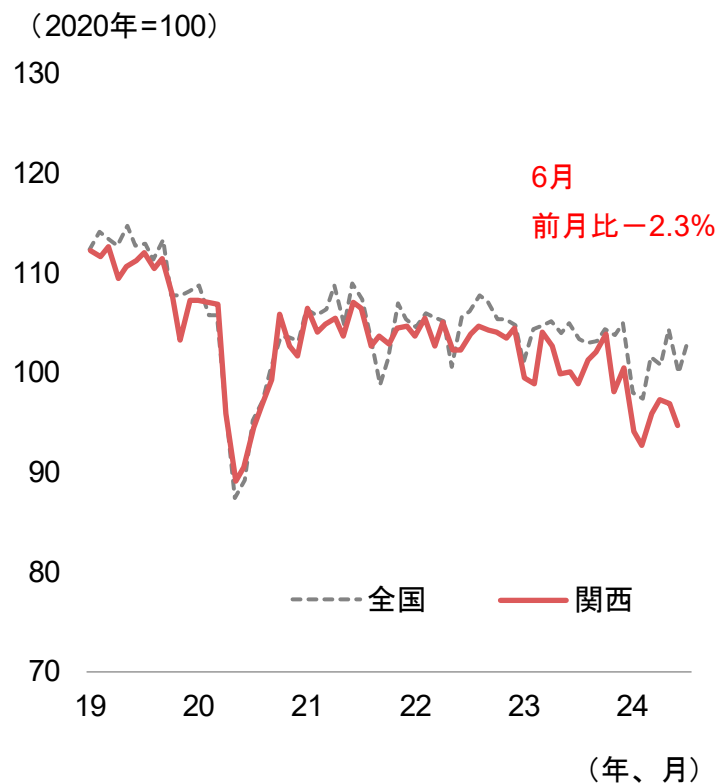
注：()内は前月からの変化の方向

輸出は、「弱い動きとなっている」から上方修正(↑)

生産

6月の鉱工業生産(関西)は前月比-2.3%と2ヵ月連続でマイナスとなった。均してみると足踏み状態となっている。業種別では、化学、汎用・生産用・業務用機械などが低下した。

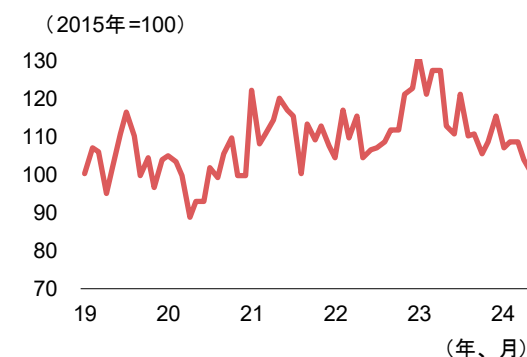
鉱工業生産指数



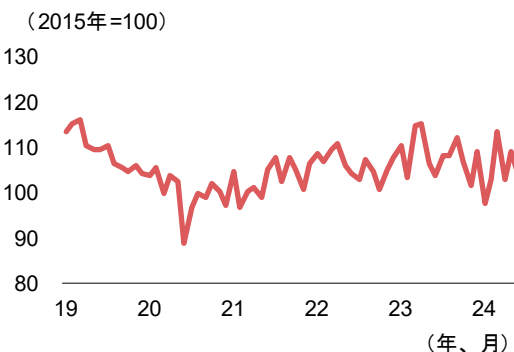
電子部品デバイス



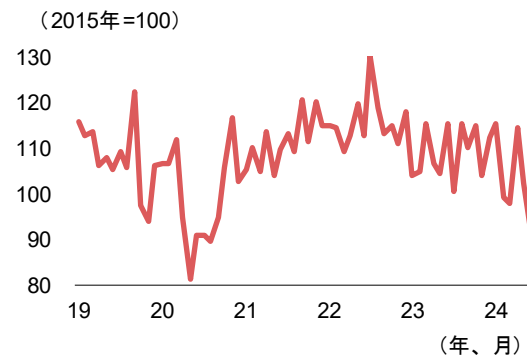
電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械



(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

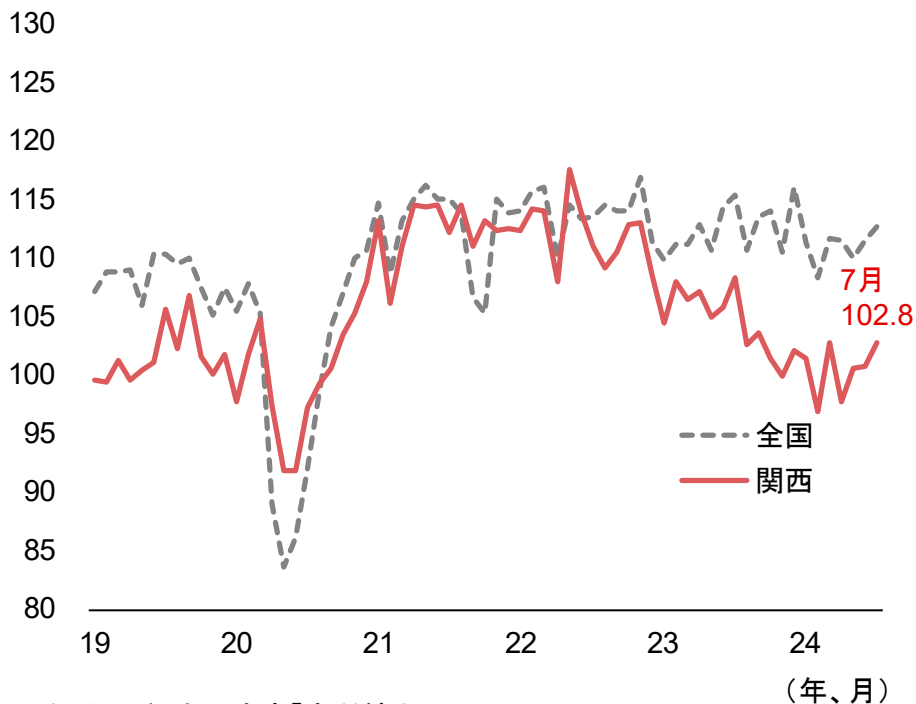
輸出

7月の実質輸出(季節調整値)は、前月比+1.9%の102.8と3ヵ月連続で上昇したが、均してみると足踏み状態となっている。

当社試算による7月の輸出数量指数(季節調整値)は2ヵ月ぶりに上昇したが、均してみると足踏み状態となっている。

実質輸出指数(季節調整値)

(2020年=100)



輸出数量指数(季節調整値)

(2020年=100)



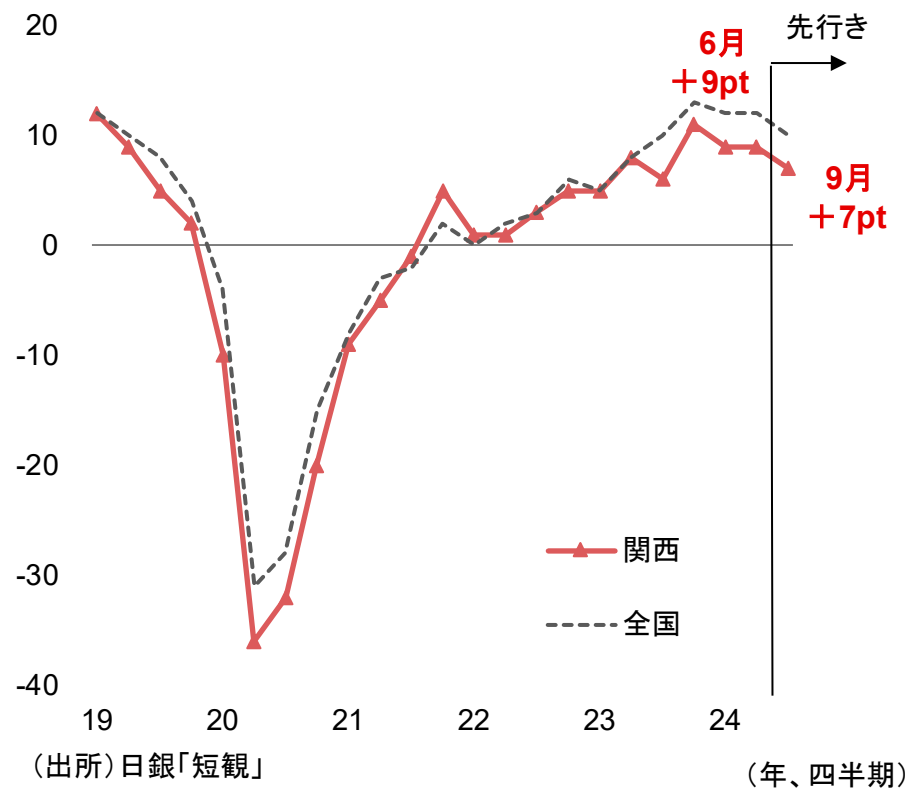
(出所) 内閣府、MURC

(注) 関西の数量指数はMURC試算。輸出金額(指数)を輸出価格指数(全国)で除したものの。

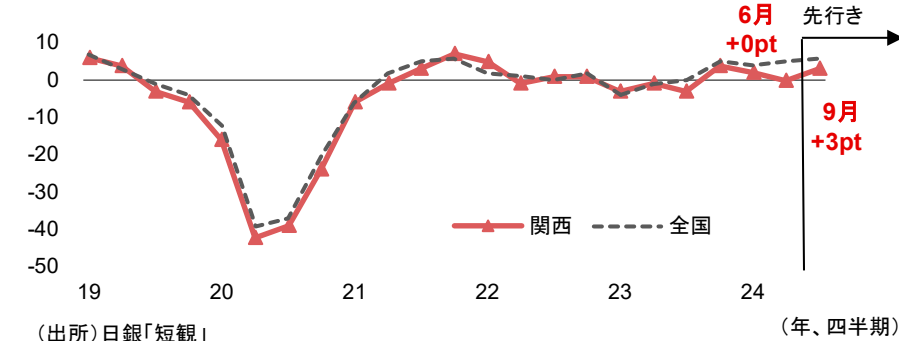
企業景況感(日銀短観) ※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/1公表予定

日銀短観6月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+9ptと3月調査と同水準。製造業は0ptと2pt低下、非製造業は+17ptと1pt上昇した。業種別に見ると、製造業では鉄鋼、金属製品が大幅に低下した。非製造業では引き続きすべての業種で「良い」超となったがDIは低下した。先行き(9月)については、製造業は上昇、非製造業は低下が見込まれている。

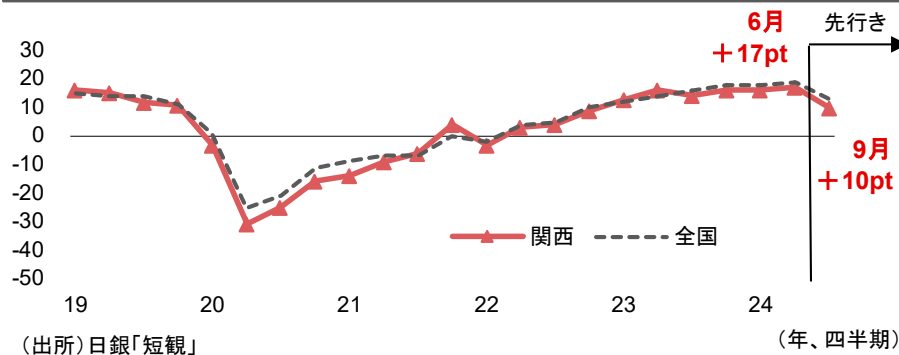
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



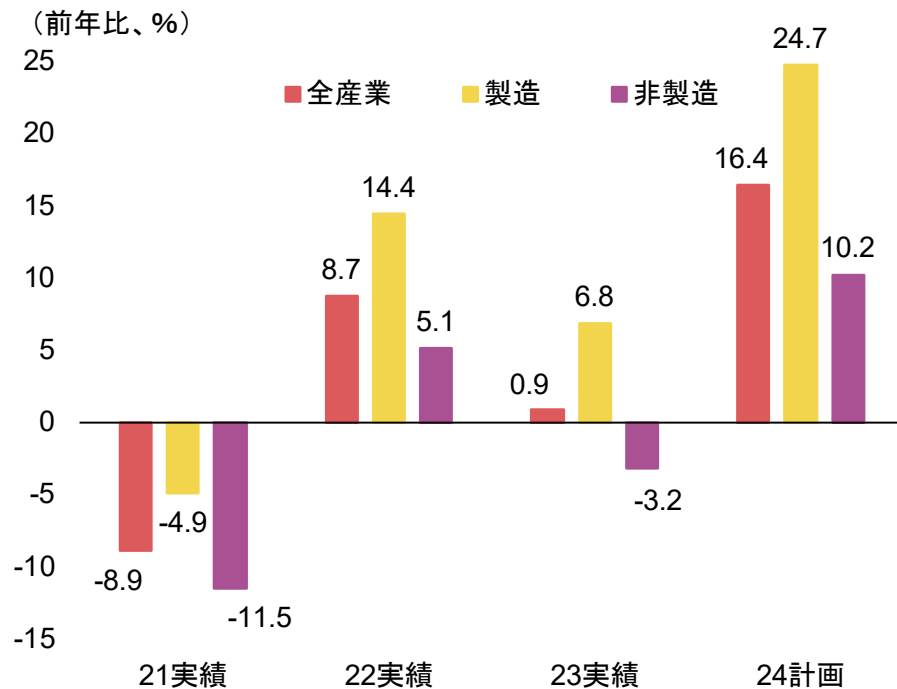
同 非製造業



設備投資※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/1公表予定

日銀短観6月調査によると、24年度の設備投資は前年比+16.4%と高い伸びが見込まれている。製造業では、はん用・生産用・業務用機械、金属製品等が、非製造業では、建設、卸売、宿泊・飲食サービス等が高い伸びを見込んでいる。

設備投資 実績・計画



設備投資額(前年比%)

設備投資額(前年比%)

	23年度 実績	24年度計画		
		今回調査	前回調査との 差異	前回調査
全産業	0.9	16.4	(13.8)	2.6
製造業	6.8	24.7	(14.2)	10.5
非製造業	-3.2	10.2	(13.0)	-2.8

(出所)日銀大阪支店「短観」

(年度)

(注)設備投資は、含む土地投資額

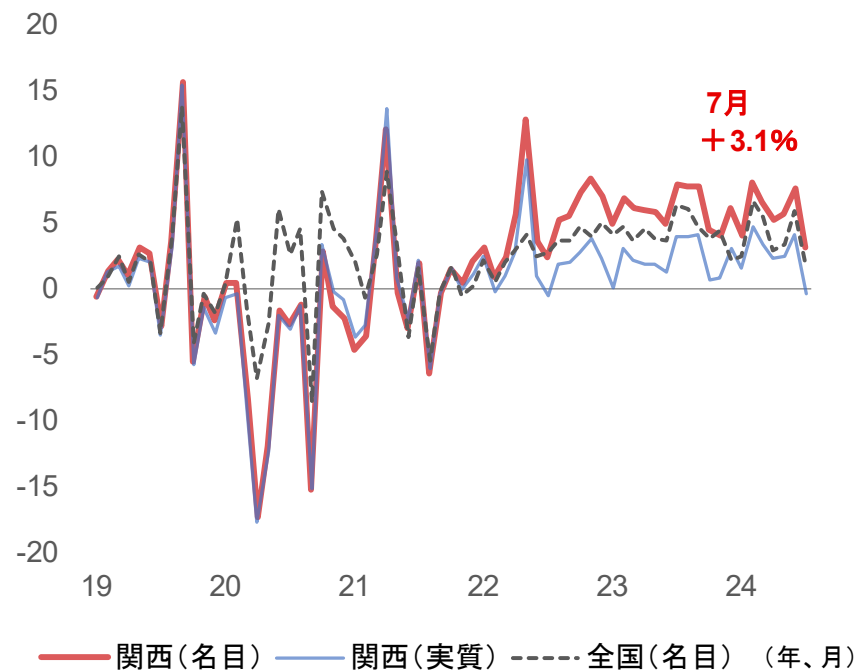
個人消費(小売売上、自動車販売)

7月の小売販売額(名目)は前年比+3.1%と34ヵ月連続でプラスとなった。実質値を試算すると、7月は前年比-0.3%と24ヵ月ぶりにマイナスとなった。

7月の新車販売は、前年比+5.1%と7ヵ月ぶりにプラスとなった。普通車、小型車、軽自動車、いずれもがプラスとなった。

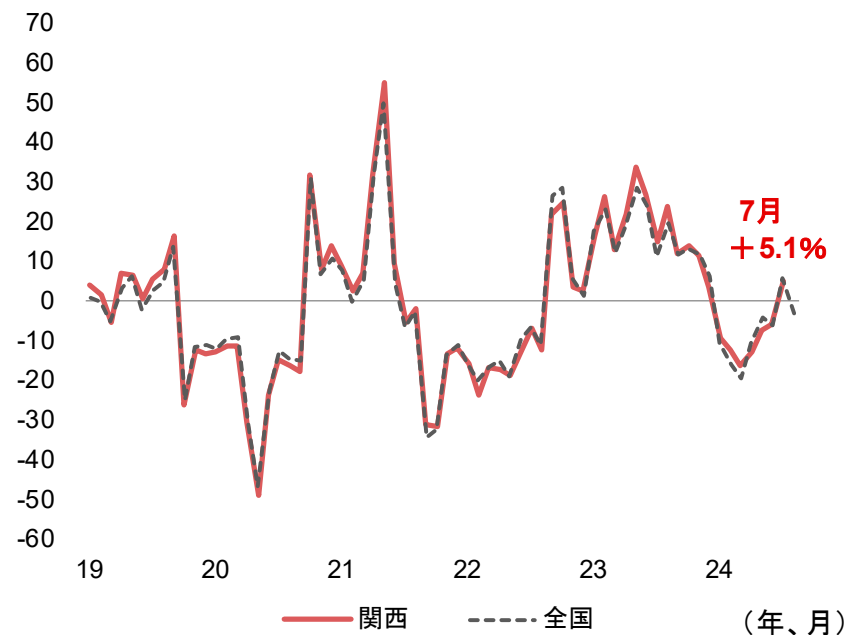
小売販売額(6業態計)

(前年比、%)



新車販売台数(含む軽)

(前年比%)



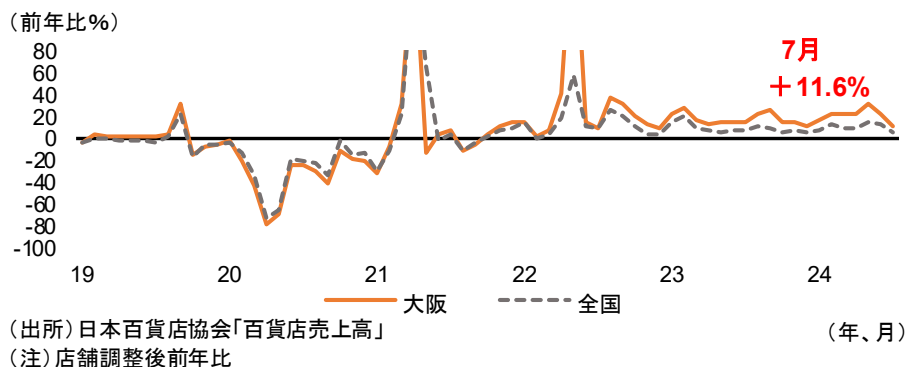
(出所)日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

(出所)経済産業省「商業動態統計」からMURC試算
(注)百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

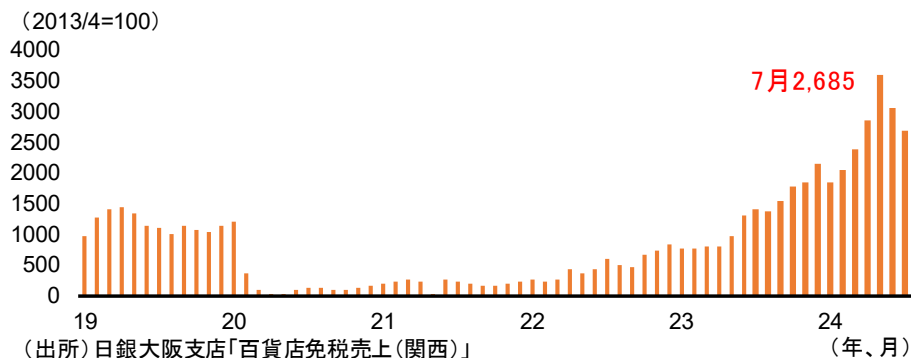
個人消費(業態別)

7月の百貨店売上(大阪)は、高額品販売の好調、インバウンドの増加などにより、前年比+11.6%と34ヵ月連続でプラスとなった。7月の京阪神百貨店免税売上指数は、訪日外客数の増加、物価上昇の影響もあって、前年比+92.3%増の2,685となった。

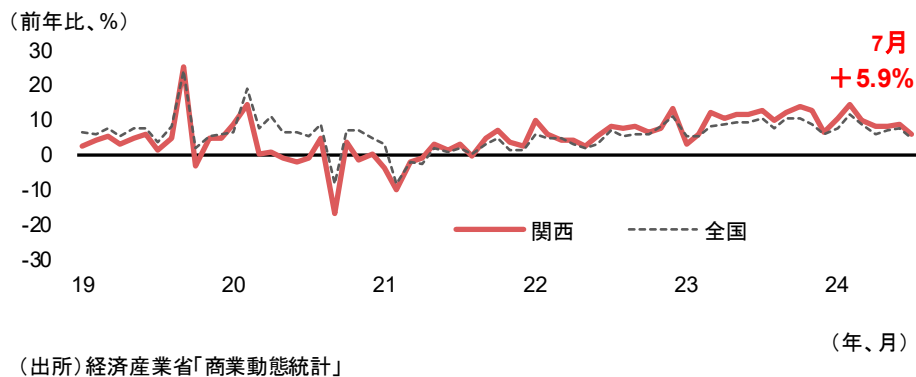
百貨店売上高



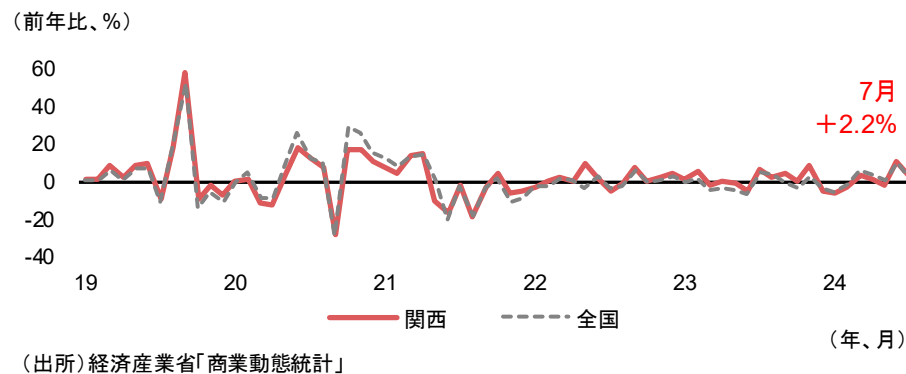
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

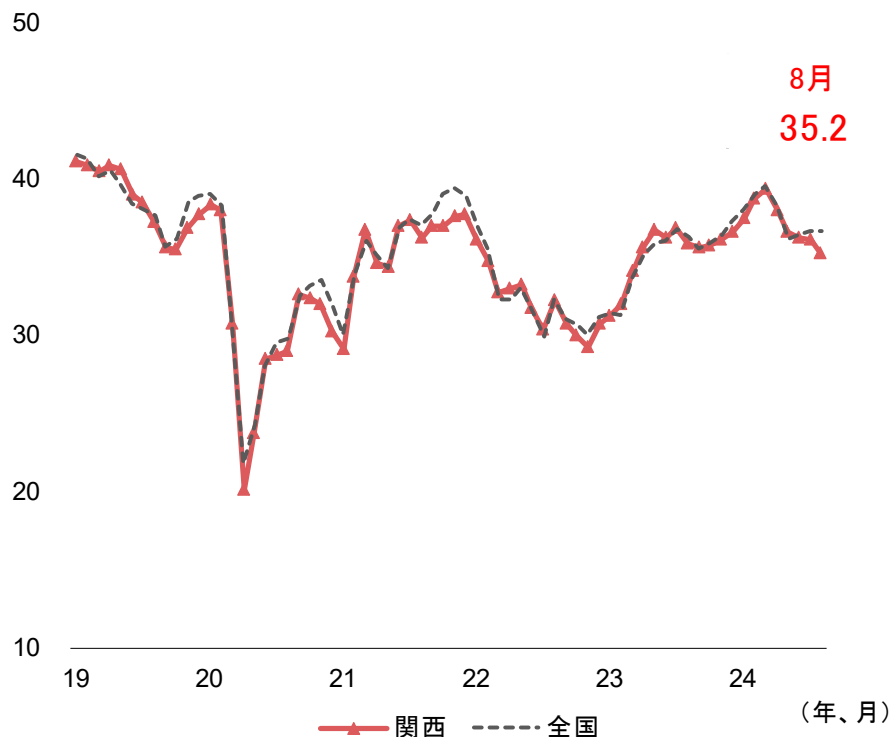


マインド・景況感

8月の消費者態度指数(季節調整値)は35.2と5カ月連続で低下した。

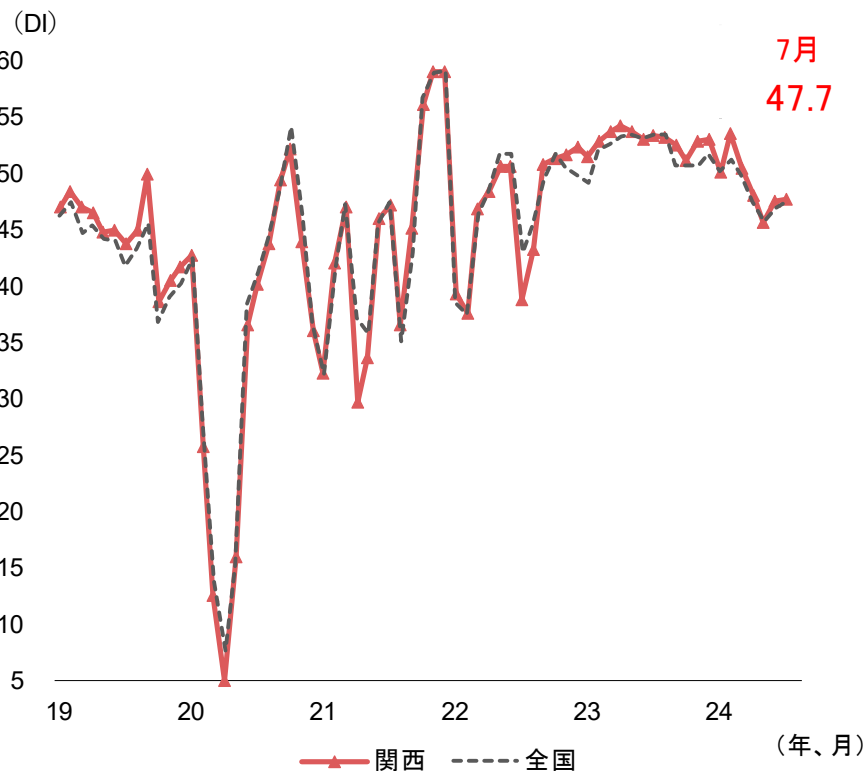
7月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は前月差0.1pt上昇の47.7となったが、横ばいを示す50を4カ月連続で下回った。インバウンドが引き続き好調である一方で、物価高、コスト高が景況感を引き下げている。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

賃金・雇用

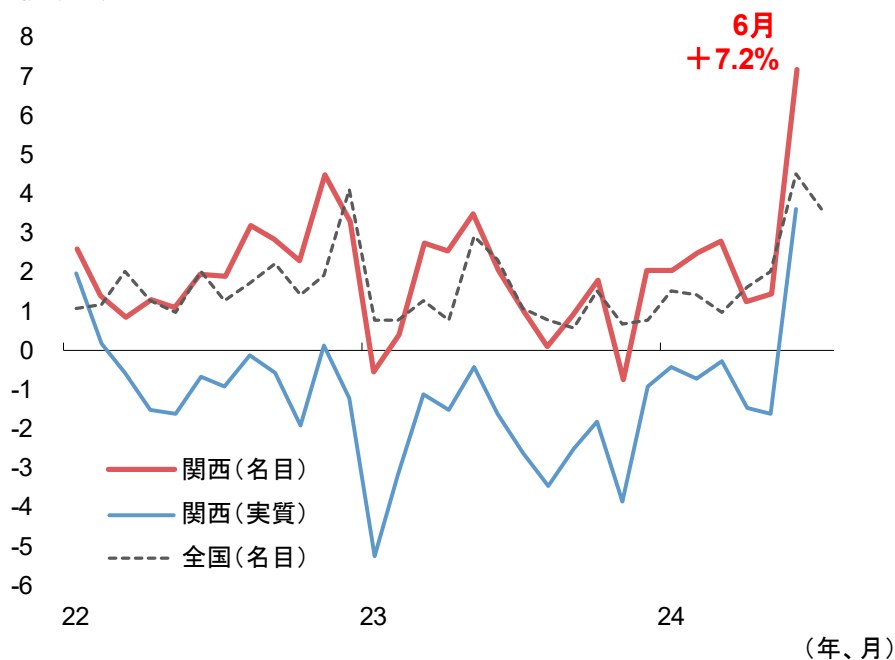
6月の関西の名目賃金指数は、特別給与の増加もあって前年比+7.2%と上昇率が拡大し、7ヵ月連続でプラスとなった。実質でもプラスとなった。

7月の有効求人倍率は1.13倍と前月とほぼ同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

24年4-6月期の失業率は2.6%と前期から低下、就業者数は増加した。

名目賃金指数

(前年比、%)

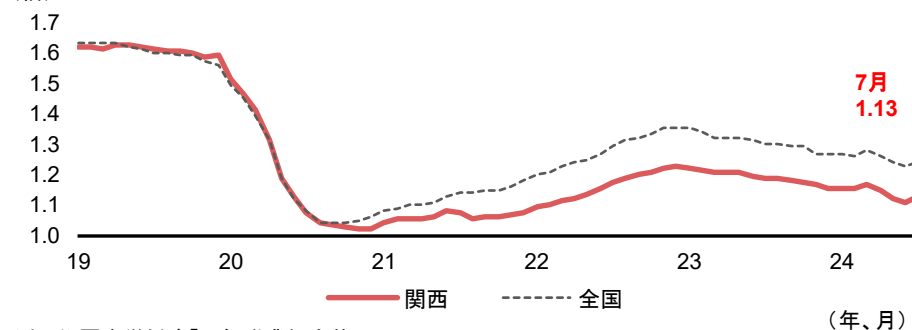


(出所) 関西2府4県の名目賃金指数(現金給与総額)、常用雇用者指数よりMURC作成

(注) 「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

有効求人倍率(季節調整値)

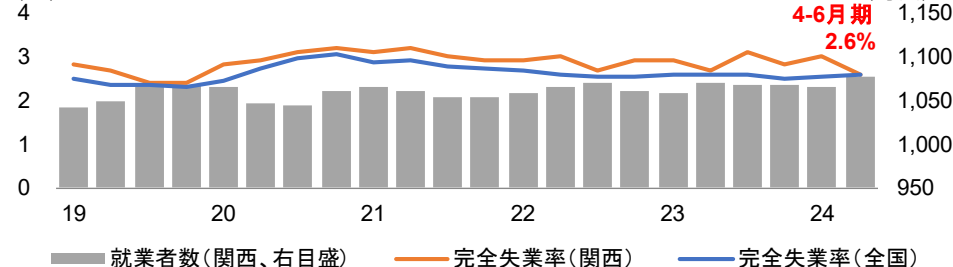
(倍)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数(季節調整値)

(%)

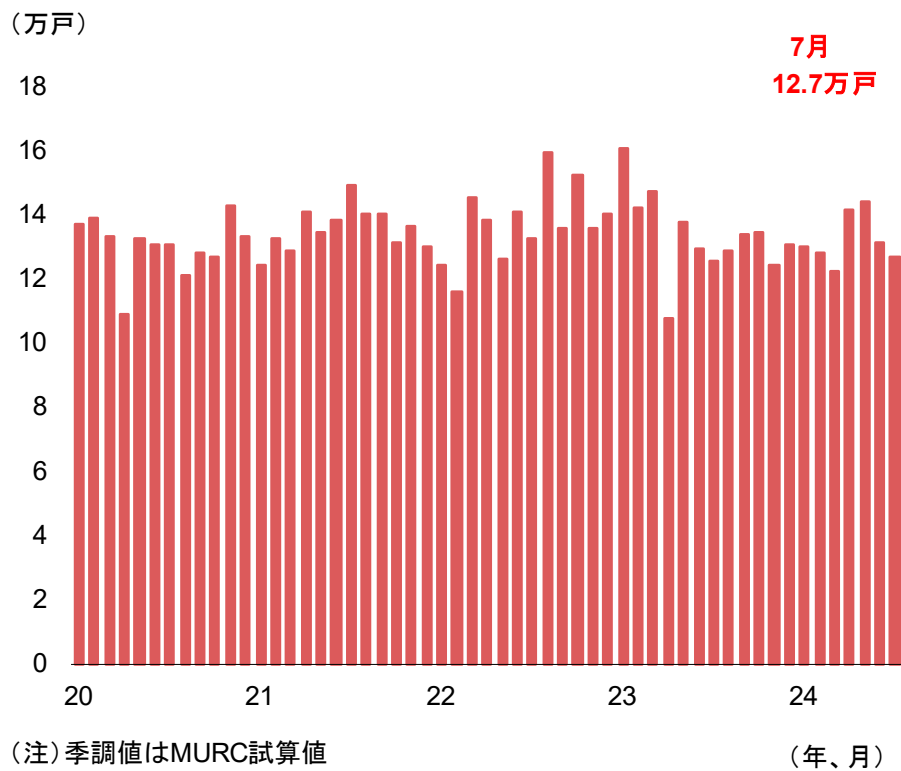


(出所) 総務省「労働力調査」

住宅投資

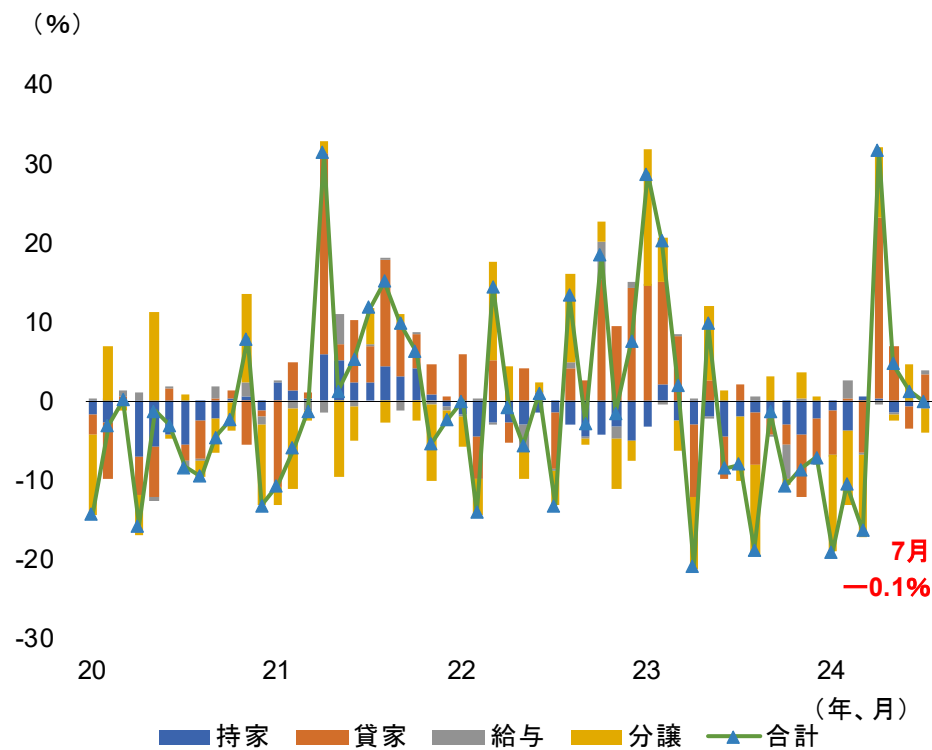
7月の住宅着工は、季調・年率12.7万戸と2ヵ月連続で前月比で減少した。前年比では、貸家が増加したが、持家、分譲が減少し、全体で-0.1%と小幅ながら4ヵ月ぶりに減少した。関西の住宅投資は、均してみると横ばい圏で推移している。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

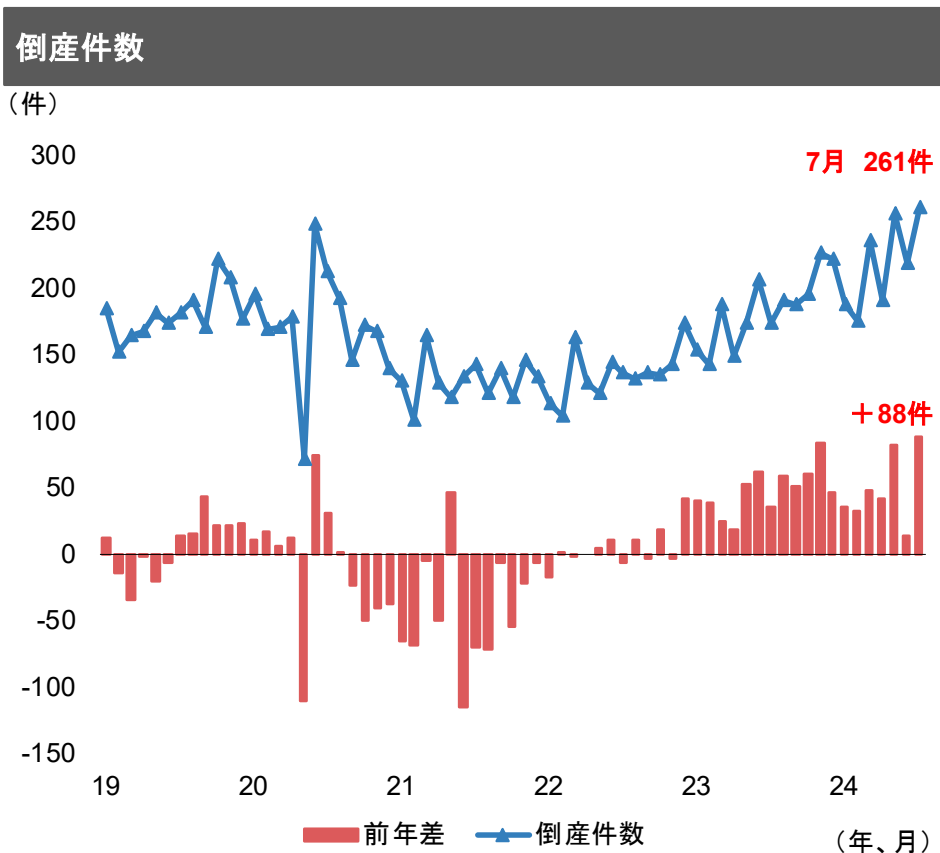
新設住宅着工戸数(前年比)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

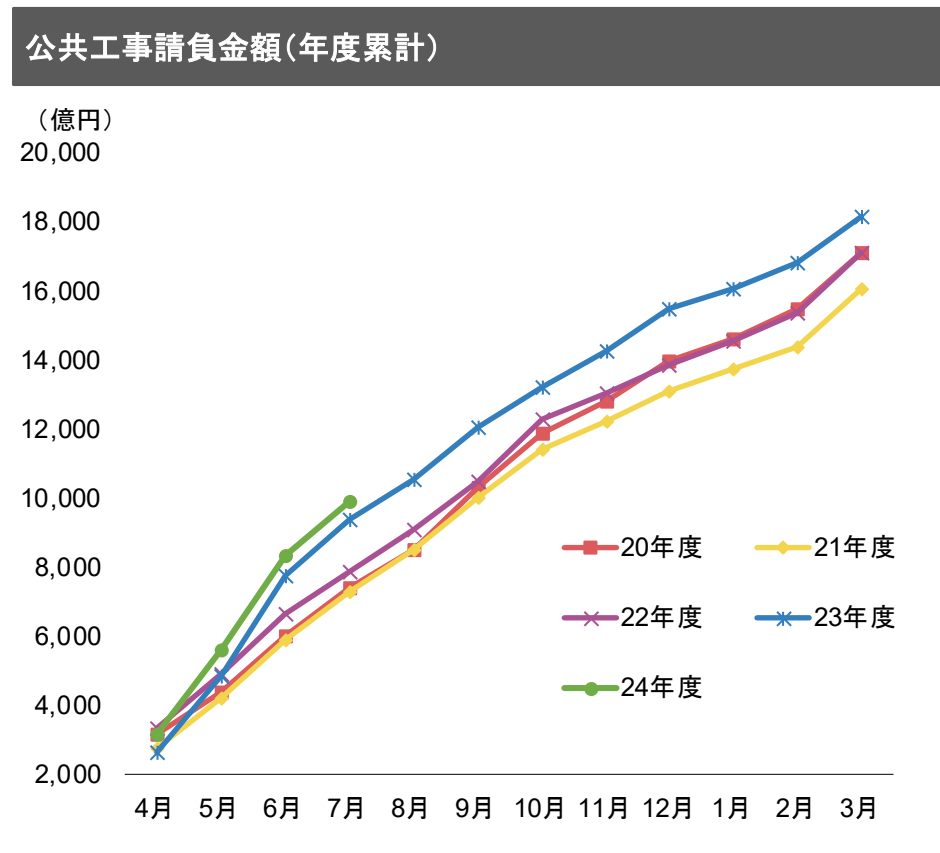
7月の倒産件数は261件と前年から88件増加。前年からの増加が続いており、概ねコロナ前程度の水準で推移している。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

7月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+5.8%の9,926億円。高めの水準となっている。



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー